



にじのはし幼稚園 園だより



令和 7 年 3 月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 飯田美弥

『背のびをしたら ひざしのおい もうすぐ春かもしれないな 北風吹いて 耳までいたい
まだまだ冬かもしれないな』 暖かさと寒さを繰り返しながら少しずつ春に近づいていくことを歌った「あたたかい日さむい日」(新沢としひこ 作詞/中川ひろたか 作曲)という歌を口ずさみたくなる今日この頃です。

2月のにじっこコンサートを終え、また一つ自信をもったにじっこたち。5歳児いるか組はプレスクールで、台場保育園とアスクお台場保育園の5歳児と共にお台場学園港陽小学校の1年生と交流し、就学への期待が高まっています。4歳児かもめ組と3歳児ことり組は一緒にお台場学園港陽小学校の作品展を見学し、かもめ組が優しくエスコートする姿がありました。その後、お台場学園港陽中学校の作品展に行き、そこでは以前手作りおもちゃをもって遊びに来てくれた9年生に案内してもらいました。園児のペースに合わせて案内してくれて、子どもたちはとてもうれしそうでした。様々ななかかわりの中で、この1年にもにじっこたちが育つことができたことに感謝しています。

今年度は、主体性を発揮できるようにというねらいをもち、園だよりでも発信してきました。大人は、子どもが失敗をしないように、つついとお膳立てしてしまいがちです。しかし、小さい頃こそ失敗をしたほうがよいように思います。大切なのは失敗しないことではなくて、失敗したと感じたときにどうやって回復するかです。現代は、その力(レジリエンス)をもっていない子が増えていると言われています。また、正解を大人がいつも示してしまうと、自分で考えずに、指示待ちをする子になってしまいます。人は本来、自分で考えて選択したものでしか動けないそうです。もちろん、小さいうちはどこから選ぶのかを大人が精選する必要がありますが、自分で決めて、できたという経験の積み重ねが、大きな自信につながっていきます。そのためには、身近な大人が何を選ぶか(園の環境設定はこれにあたります)も大切ですが、自分で気付いたという体験をさせるためにどの程度見守ることができるかということも重要ではないかと思えます。子どもが何かを発見したときの笑顔は、心からの喜びに満ちあふれています。そういう体験を重ねられるよう、幼稚園でも知恵を絞っていきます。また、失敗したと感じたときには、その行為について考えることが必要で、そのことで子どもの人格が否定されることのないように配慮しなければならないと考えます。どんな自分でも愛されているという実感のある子は、主体性を発揮して、自己肯定感を高くもって成長していきます。この春修了するいるか組さんには、この先どんなことがあっても、幼稚園時代に培った根っこを基に、自分らしく大きくなっていけるように願い、心からのエールをおくります。

今年度も、本園の教育にご理解・ご協力をいただきありがとうございました。

幼稚園経営計画 3 幼稚園経営の方針からの抜粋

<子どもの自己肯定感を主体的に育む保護者>

- ③ 学級の子どもの成長を先生や保護者同士で喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に理解や協力をし、園や地域と共に子どもを育む保護者

